

「京都市百々老人デイサービスセンター」の廃止方針について

京都市百々老人デイサービスセンター（以下「百々デイ」という。）については、現在の指定管理期間が令和5年3月31日までであるため、本年5月に、次期指定管理期間（令和5年4月1日から6年間）に係る指定管理者を公募しましたが、現指定管理者も含めて応募がありませんでした。

この結果を受け、百々デイについては、デイの総量規制地域（「通所介護」「地域密着型通所介護」のサービス供給量が需要量を上回っているため、事業所の新規参入を認めていない地域）に所在しており、今後再公募して応募が見込めるのか、仮に応募があったとして安定した運営継続が見込めるのかについて、関係団体等の協力を得て見極めを行ったところです。

その結果、再公募しても応募が見込めず、かつ仮に応募があったとしても安定した運営の継続が見込めないことから、再公募を行わず、現指定管理期間の満了する令和5年3月31日をもって廃止することが妥当との判断に至りましたので、御報告します。

1 施設の概要等

(1) 施設概要

所在地	山科区川田土仏26番地
構造等	鉄筋コンクリート造4階建て（1・2階の一部） ※市立百々小学校の敷地内
施設面積	690.94 m ²
建物竣工年月	昭和56年11月
デイ開所年月	平成11年4月
現指定管理者	社会福祉法人同和園

(2) 稼働状況

サービス種別	通所介護				
定員	25人				
稼働状況	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
延べ利用者数	2,250人	4,287人	5,060人	5,714人	5,043人
稼働率	39.8%	55.9%	65.9%	74.4%	65.7%
<参考>公設デイの平均稼働率※	77.8%	80.1%	79.0%	75.8%	71.6%

※稼働率は、「延べ利用者数÷（定員×営業日数）」で算出。

(3) 収支状況

(単位：千円)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
収入<a>	26,503	49,202	56,054	66,533	57,152
支出	51,752	54,283	64,183	76,581	74,025
収支差<a-b>	▲25,249	▲5,081	▲8,129	▲10,048	▲16,873
<参考>公設デイの平均収支差	5,092	4,417	3,244	483	▲1,024

※公設介護サービス施設は全額介護報酬で運営しており、本市は指定管理料を負担していない。

2 廃止が妥当と判断する理由

本市では、主に介護保険制度創設（平成12年度）以前のサービス供給量が少なかった時期に、公設デイを整備し、サービス供給量の確保に努めてきました。

しかし、今日、介護保険制度創設当時と比べ、要介護認定者数は約3倍に増加しているところ、デイの事業所数はそれを上回る約6倍に増加しており、平成30年度からはサービス供給量が需要量を上回る地域において総量規制を開始するまでになっています。

百々デイは、そうした供給過多の地域にあるため、今回の募集結果を受けて、再公募して応募が見込めるのか、仮に応募があったとしても安定した運営継続が見込めるのかについて、関係事業者へのアンケート調査や関係団体へのヒアリング調査等（※）を通じて、地域ニーズや応募意欲等の見極めを行ったところです。

その結果、再公募しても応募が見込めず、かつ仮に応募があったとしても安定した運営の継続が見込めないことから、百々デイについては、サービス供給の少ない時代に供給量を確保するという、公設整備当初の役割は終え、引き続き維持し続ける必要性が乏しくなったものと考えられます。

このため、現利用者に不利益が生じないようサービス調整することを前提として、再公募を行わず、現指定管理期間の満了する令和5年3月31日をもって廃止することが妥当と判断するものです。

※アンケート調査等の概要

(1) 関係事業者へのアンケート・ヒアリング調査

- ・山科区内で「通所介護」を実施する全39法人を対象にアンケート調査を実施
- ・上記のうち、公設デイを運営する全4法人を対象にヒアリングを実施

(2) 関係団体へのヒアリング調査

京都市老人福祉施設協議会及び京都地域密着型サービス事業所協議会を対象にヒアリングを実施

(3) その他

本市ホームページ及び関係団体の会員ページ等において、百々デイの状況及び運営に関心がある場合に問合せを求める記事を掲載

(1) 供給過多地域にあって、再公募しても応募が見込めない。

ア 百々デイの所在する地域は、総量規制を始めた平成30年度以降、継続してデイの総量規制地域となっており、デイはもとより小規模多機能型居宅介護等、デイの機能を持つ代替サービスも充実している。このため、利用者にとっては選択肢が多い反面、事業者にとっては競争が激しく、総じて安定した新規利用者の獲得や継続運営が困難な状況にある。

イ アンケート調査やホームページでの周知において、2法人が百々デイの運営に関心を示したが、その後のヒアリング等を通じ、安定した継続運営への懸念等から、応募は困難との意向を確認しており、総じて再公募しても応募は見込めないものと考えられる。

(2) 仮に再公募に応募があり、指定管理を引き継いだとしても安定した継続運営が見込めない。

ア 百々デイは、平成28年度に行った次期指定管理者の公募の際、当時の指定管理者が業績低迷を理由に応募を断念。これを受け、本市が関係団体に協力要請した結果、現指定管理者が再公募に応募・選定されたものの、業績が改善しなかったため、今回の応募断念につながっている。

イ 平成28年度に百々デイの指定管理者が交代した際、元指定管理者から現指定管理者に引き継がれたのは当時の利用者の約1割だったが、現在百々デイを利用中の

方には、早期からのサービス調整が望ましい要介護度の高い重度の利用者が多い（参考：要介護3以上が約6割）ことから、現在の利用者で次期指定管理者に引き継がれるのはごく少数になると見込まれる。

このため、次期指定管理者は、総量規制地域に新規参入するのと同じような状態になり、新規利用者の獲得に困難が予想される。また、重度の利用者の受入れが多くなると、人員体制を手厚くする必要が生じ、結果として安定した継続運営が困難になるものと考えられることなどから、仮に再公募の結果、次期指定管理者に選定される法人があったとしても、平成28年度における指定管理者の交代の際と同様、総じて安定した継続運営は見込めないものと考えられる。

3 廃止に向けた今後の対応

(1) 廃止時期

現指定管理期間の満了する令和5年3月31日をもって廃止することとし、本年9月市会に廃止に係る議案を提案してまいります。

(2) 利用者・地元への対応

百々デイの所在する地域は、デイはもとより小規模多機能型居宅介護等、デイの機能を持つ代替サービスも充実している地域であり、利用者にとって選択肢が多い地域です。このため、本人・家族やケアマネジャーと調整し、本人の状態像等に応じ、必要なサービスを引き続き利用できるよう、本市と現指定管理者とで適切に利用調整を行ってまいります。

併せて、地元関係者に、廃止が妥当と判断する理由等を説明するとともに、廃止後のスペースの活用等について、検討してまいります。

<参考：主な調査結果>

1 現況

所在圏域（※1）の デイ需給推計	106.5%（※2） ＜参考＞市内全76圏域中6番目に多い。
所在圏域のデイサ ービス指定状況	9か所（※2） ＜参考＞山科区内全46か所。市内全406か所
所在圏域内の関連 サービス指定状況	（看護）小規模多機能型居宅介護2か所 ＜参考＞山科区内全12か所、市内全100か所

※1 山科③圏域…「勸修学区」「百々学区」「山階南学区」（山科区は全部で5圏域）

※2 数値は「通所介護」「地域密着型通所介護」の合計（令和4年3月31日時点）

2 山科区内で通所介護又は地域密着型通所介護を運営する全法人へのアンケート結果（概要）

運営するデイの稼働状況（稼働率）	60%未満	23.3%
	60%以上 70%未満	20.0%
	70%以上 80%未満	26.7%
	80%以上 90%未満	26.7%
	90%以上	3.3%
運営するデイの収支状況	赤字	43.3%
	黒字	30.0%
	収支均衡	26.7%
百々デイの運営への関心の有無	1法人のみ「関心がある」と回答したが、その後のヒアリング等で応募困難との意向を確認。 ※なお、別途、ホームページでの周知により1法人が関心を示したが、その後のヒアリング等で応募困難との意向を確認。	
百々デイの運営への関心がない理由	経営が難しい	69.2%
	利用者の確保困難	23.1%
	施設・設備の老朽化	19.2%
	その他（職員確保困難、等）	23.1%

※調査対象法人 39 法人。アンケート回収率（27 法人／39 法人＝69.2%）

3 関係団体及び関係事業者等へのヒアリング（概要）

<ul style="list-style-type: none"> ・デイが多すぎて競争が激しく、利用者の取り合いになっている。人員の確保にも苦慮している。 ・仮に稼働率が上がっても、建物・設備の老朽化による修繕コストや、収支が悪化しても指定管理期間中は撤退できないこと（※指定管理期間中、指定管理者の自己都合による休廃止は違約金の対象となる。）を考えると、応募は考えにくい。 ・施設も老朽化し、利用者の引継ぎも見込めないのであれば、経営を引き継いだとしても、安定した経営は見込みにくい。 ・百々デイは小学校内にあり、児童の安全管理上、送迎時以外門扉が閉まっている（※）ことはやむを得ないが、地域に根差した運営の観点からは課題があったと思われる。（※小学校内にある他の公設デイは道路に面して出入口等があるため、百々デイとは状況が異なる。） ・百々デイは利用者から評判がよかったので閉鎖はもったいないが、現在の運営状況を考えると仕方がない。
